

宮前支部研究だより

第2回宮前支部授業研究会

11月15日（水）西有馬小学校にて第2回宮前支部授業研究会が行われました。ご多用の中、多くの方々にご参加していただきました。

研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見や感想をまとめました。

≪5年生 ボール運動 「ネット型 ソフトバレーボール」

～拾おう！つなごう！アタックを目指して～≫

授業者 三浦 史聖 先生

研究協議

○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答

アダプテーションゲームについて

*アダプテーションゲームとは、ゲームの中でみんなにとって最適な対戦レベルをつくるために、ルールや用具などを「調整」しながらゲームを進めていくゲーム。

☆上手にアタックしたい。→「相手がレシーブしやすいように投げてあげよう」という児童がいた。どのように声掛けをしたのか？

☆教師が考えたテーマの実現ができていて、アダプテーションのよさは感じた。一方で活動していく中での難しさを教えてほしい。

◎流れについては「みんなでゲームをつくってほしい」というところからスタートした。アダプテーションの実践は今回で3単元目。（バスケットボール→ティーボール→ソフトバレーボール）取り入れたところの難しさとして「苦手だから全部レシーブキャッチにすればいいんじゃない？」など、楽な方にしようという発想になっている児童がいた。また、つないで点数がとれることの楽しさについては課題が残った。上手な子が、より高いめあてをもてるようにしたい。どのコートもほとんどが簡易化するルールを選んでいて、自分に合っためあてを達成するゲームになってほしい。

○アダプテーションは今回初めて知った。ゲーム記録は視覚的に繋がっていることがわかる。繋がっていることが自分たちの成長という面で喜んでいる姿があった。今回は点数が入ったかがわからないため、例えばどのようなところで点数が入ったのかがわかるような記録用紙など、考えつつ使ってみたい。また、ネットの高さを変えてみたり、ボールも50gではなく100gでやってみたりして、いろいろ実践してみたいと思った。

技能について

- ☆「誰もが楽しめる」は実現できていた。自分たちの課題を解決するため、ルールの簡易化だけなのか。また、技能の向上を補うための時間はどのようにとったのか。
- ◎1、2時間目は技能向上のためのゲームを取り入れた。難しい面を確認しながら練習する姿があった。一方で、できる子に頼っていたところがあった。
- ☆サーブで相手がとりやすいところに投げている。今後サーブで場所をねらって！など変更があるのか。
- ☆児童のアンケート結果より「誰でも誰とでも楽しめる体育学習」を意識している。とあるが、はじめからキャッチなしだったのでキャッチをなしにした理由、こだわりがあれば教えてほしい。
- ◎最初からアダプテーションでいこうと思っていた。「はじく」感覚を味わってほしかった。キャッチしてから投げると「はじく」感覚とズレがあるのかなと思った。サーブについてはラスト1時間もこのままでいく。判断が難しいことから、パターンとして覚えているところもあるため、つなぐ楽しさを感じることができるようになるとよいと思っている。

話し合いについて

- ☆あたたかいクラスの雰囲気よかった。ゲームとゲームの間話し合いで「ルールをどうする？」という会話だけで終わってしまっていた。「接戦にするための話し合い」になっていたが「つなぐことができた」「得点ができる」など「できた。嬉しい」をみんなが感じることができていたのか。
- ☆本時のねらい「チームの課題を見付け、解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする」があるため「接戦にしたい」という担任と子供たちの思いはよく伝わった。動きに着目した声掛けがあるともっと楽しくできると思う。教師のイメージや思いと今日の授業はどうだったか。
- ◎話し合いで課題を見付けることは課題だと感じている。ゲーム時間の確保をする上で話し合いの時間があまりとれていなかったため、課題について話し合う時間を作ればよかった。ただ、アダプテーションゲームで課題を見付けることは難しい。記録を見ながら課題を把握できるようにしたかった。「接戦にする」というところに視点がいきすぎてしまった。

1、ソフトバレーボールの楽しさ、目指す姿について

ボールをはじく、はじいてつなぐ、相手コートに打ち返して得点を決める。勝敗を競う楽しさだと思ふ。それを味わうために技能向上が必要。その技能を身に付けるうえで目指す姿とは、『ボールをつなぎながら攻撃』の形を作って相手コートに入れて得点をとる。

→その姿にするために・・・簡易化されたゲーム

例えば)

- ・人数を変える
- ・コートの広さを変える
- ・ネットの高さを変える
- ・つなぐ回数を多くする。
- ・ボール、用具の工夫 など

2、指導案から

ルールについて

・「みんなが楽しさを味わえる」をねらっているのがわかった。

実態からの基本のルールとして、簡易化されているけど・・・

- ①キャッチなし→初めてやるのにキャッチなしは厳しい。キャッチを入れると安心できる。
- ②つなぐ回数（何回でもつないでいいよ）→回数に制限がないとチームでつないでいくうちにミスにつながり相手コートに返らないということがある。最初は4、5回くらいの回数設定があるとよい。ある程度のしぼりが必要。

例えば「3回で返さないといけない」という決まりがあると、より丁寧になる。

「できない」→「どうやったらできるようになるのかな？」と考えられると思考につながる。

・「体育学習で学級を育てる」と書かれているが「学級経営が学習にあらわれる」と思う。

チーム内ゲーム

一緒に上達。アドバイスしやすい。話し合いが充実するという点ではよいと感じた。一方で対戦相手がずっと一緒ということ。色々なチームと対戦すること自分たちやチームのめあてができると思う。子供たちは7時間同じチームと対戦することを望んでいるのか？色々なチームとやりたいという思いもあるのでは？勝敗は大事。勝敗を受け入れることの指導も大切。

ゲーム記録

面白いと思った。自分たちの課題が見やすくてよかった。

道すじ

5時間目までの活動の中で運動時間が短いと思う。とくに1、2時間目など、もっともっと活動する時間があるとよい。何でもかんでも気付かせる！ではなく、「こういう形だよ」を伝えていくことが必要で、その時間を考えた道すじにするとよい。

3、今日の授業から

自分の考えているよい授業とは

→教師、子供、みんな笑顔。冬でも汗だく。いっぱい考える。自分たちで話し合いが始まる。
教師がいっぱい動いていっぱい声掛け。

- ボールをもう少し重くしてもよかった。
- ルールのことについての話し合いで終わってしまったため、どのように動けばよいか、攻め方などの話し合いをする姿を目指したい。
- 教師がたくさん動いていた。子供に寄り添って伝えていたのが良かった。一方で得点が入ったときの盛り上がりが静かだった。勝敗の意識より「みんなで」という意識が強かったからだと思う。
- 学習の振り返りの時間、記録を見た時の盛り上がりが今日の1番の盛り上がりだった。その盛り上がりをゲームで出せるとよい。身に付けた技能が生かされたとき、喜びに繋がっていた。不安や苦手が成功体験につながるともっともっと盛り上がっていくと思う。
- 子供への思いがよく伝わった。ソフトバレーボールを楽しむ授業ができると思いと思う。仲間を大切にしながら勝敗も楽しむことをめざしてほしい。